

地域を愛する心や豊かな情操を 養う地域の自然に学ぶ活動

富山県南砺市立 上平小学校

5年 生田和華・今井玲奈

学校紹介

上平地域は、約8割が森林に囲まれていて、ダムや湖、たくさんの谷川もあり、自然豊かな地域です。また、世界遺産の菅沼合掌造り集落があり、東海北陸自動車道が全線開通したことにより、毎年たくさんの観光客が訪れています。

上平小学校は、全校児童53名の小さな学校です。学年の枠を超えて、一緒に遊んだり活動したりしていて、みんな仲よしの学校です。それに、みんな上平の自然や文化が大好きです。



活動場所の紹介

上平小学校には、20年ほど前から学校林があります。旧上平村が100周年を迎えた際に植樹祭が行われ、それ以来、小学校・中学校が協力して世話をすることで、学校林を守ってきました。

学校林では、毎年6月末ごろに、下草刈りや植樹などの活動を行っています。今年も、4、5、6年生1人1人がかまを持ち、植樹した木が大きく育つように下草刈りをしました。他にも、雪の重みで幹や枝が曲がった杉をおこす「杉おこし」や、「植樹」も行いました。

また、地域の森の名人の方に来ていただき、森林の働きについても教えていただきました。森林が、「土砂崩れや雪崩を防いでくれること」、「雨水をたくわえ、少しずつ川に流していること」などが分かり、今後も学校林を守り続けていこうという思いを強くしました。



今後の夢、希望、活動計画など

私たちは、自然を生かした活動を通して、自然を大切に守り続けていくこと、自然の恵みに感謝する心を学んでいます。私たちは、自然豊かで伝統的な文化を守り続けている上平地域が大好きです。今後も上平地域の自然や文化を守り続けていきたいです。

地域を愛する心や豊かな情操を養う地域の自然に学ぶ活動

富山県南砺市立上平小学校

5年 生田 和華、今井 玲奈

1 はじめに

南砺市立上平小学校は、南砺市の南西部に位置し、河口から約70km上流にさかのぼった庄川の沿岸10kmに渡って点在する山々に囲まれた集落の中にあります。上平地域の約8割が森林に囲まれていて、ダムや湖、たくさんの谷川もあり、自然豊かな地域です。また、世界遺産の菅沼合掌造り集落があり、東海北陸自動車道が全線開通したことにより、毎年たくさんの観光客が訪れています。



2 学校林での育樹活動

上平小学校には、20年ほど前から学校林があります。旧上平村が100周年を迎えた際に植樹祭が行われ、それ以来、小学校・中学校が協力して世話をすることで、学校林を守ってきました。

学校林では、毎年6月末ごろに、下草刈りや植樹などの活動を行っています。4、5、6年生1人1人がかまを持ち、植樹した木が大きく育つように下草刈りをしました。

他にも、雪の重みで曲がった杉をおこす「杉おこし」や、「植樹」も行いました。

また、地域の森の名人の方に来ていただき、森林の働きについても教えていただきました。森林が、「土砂崩れや雪崩を防いでくれること」、「雨水をたくわえ、少しずつ川に流していること」などが分かり、今後も学校林を守り続けていこうという思いを強くしました。

<下草刈りの様子>



<杉おこしの様子>



<植樹の様子>



3 おわりに

学校林での活動以外の「地域の自然に学ぶ活動」として、「ほお葉飯作り」「栃もち作り」等、自然の恵みを生かした地域の伝統料理を作る活動をしています。また、「上小フォレストでの遊具遊び」「かんじきウォーク」「雪像作り」等、自然を生かした遊びや活動もしています。「地域の自然に学ぶ活動」を通して、自然を大切に守り続けていくこと、自然の恵みに感謝する心を学んでいます。そして、地域を愛する心や豊かな情操を養っています。

<かんじきウォークの様子>



「寿恵野の森ビオトープ」からのちのつながり見付けよう

愛知県豊田市立 寿恵野小学校

6年 榎本峻佑・長坂諒



寿恵野尋常小学校校舎（明治23年当時）

学校紹介

寿恵野小学校は、明治6年（1873年）10月10日、第2大学区7中学区第14小学鴛鴦学校（遍照寺）として創立発足された。下等は満6才～9才、上等は満10才～13才までの8ヵ年、男女ともに就学させることを義務づけた。就学率は決して高いとは言えず、学校の財政も厳しいものだったが、創立から130年余、上郷地区の教育を支え続け現在に至っている。学校の近くを矢作川が流れ、田んぼの集落の一角に学校があります。



活動場所の紹介

ビオトープを日本語にすると、「野生の生き物が暮らせる場所」となります。池はもちろんビオトープですが、小川も森も小山もすべてビオトープ。寿恵野小学校のような学校にあるビオトープを「学校ビオトープ」と言います。豊田市でも有数の学校ビオトープです。この学校ビオトープは、榎原校長先生が寿恵野小学校におられた9年前に造られました。校長先生いわく、「以前はモロコヤオイカワやたくさん生き物がいたんですよ」……その頃に比べると、生き物の数や種類が少なくなってしまうようですね。そこで、もう一度ビオトープらしいビオトープをみんなの知恵と力で再生させようと、「ビオトープ部」の活動が始まりました。

今後の夢、希望、活動計画など

ビオトープ再生の取り組み、総合的な学習、COP10、ビオトープ造成10周年など多岐にわたる活動を通して子どもたちは森がどんどん好きになっていった。また森と海とのつながり、日本と海外とのつながりにまで視野が広がり、子どもたちの自信にもつながっている。これからも、ビオトープを通していのちを見つめることができる子どもたちを増やすべく、さまざまな活動を展開していく。



11年前の完成式



「寿恵野の森ビオトープ」からのちのつながり見付けよう

愛知県豊田市立寿恵野小学校

1 「寿恵野の森ビオトープ」として再生しよう

平成12年、ライオンズクラブの企画で学校の敷地内にビオトープが造成された。地下水を汲み上げ、池と湿地、小川、水田、林が整備された。

平成21年、ビオトープ造成10周年を前に、ビオトープを中心とした環境学習を総合的な学習の時間や理科の学習に明確に位置付けることにした。まず、「ビオトープは池」という意識を改めるため、「寿恵野の森ビオトープ」と名付け、ビオトープ通信「寿恵野の風」を発行して、季節の移ろいの中で微妙に変化するビオトープの樹木や草花、野鳥や昆虫などの生態を知らせることにした。

また、保護者の協力を得て、池に溜まった泥の除去、草取りをし、学区の老人会やNPO団体である「鴛鴦みどりの会」の支援で、伸びすぎた樹木の伐採などを行った。子供たちも、4年生を中心に総合的な学習の時間テーマに位置付け、間伐体験、どんぐりを使った染物作り、昆虫や野鳥、水生生物、樹木などそれぞれの個人テーマに基づく「寿恵野の森の豆博士」を目指した学習を進めた。さらに、学習の礎をつくるため、「トヨタの森」や市役所森林課、環境政策課が進める環境講習会にも積極的に親子で参加し研修を続けるなど、幅広い学習活動を展開した。本校の「いのちのつながり」を捉えさせようとする活動は、生物多様性の理念に合致することから、COP10の支援事業としても認められた。

2 ビオトープ部の誕生と活動

昨年度、新たに「ビオトープ部」という部活動を発足させた。日常的にビオトープの管理・整備をする主体者が必要なこと。自然に触れたい、生き物大好きという子供たちの意欲を、学年や学級を超えた中で保障したいと考えたからである。部のモットーは、「楽しく、たくましく」である。泥んこになっての池そうじ、枝切り、ザリガニ捕獲、小川のレイアウトを考えたワンドや池造り、橋をかけ、遊歩道を作る……夏の暑さの中でも、子供たちは嬉々として活動した。作業には、小学生がほとんど手にすることのないナタや鎌、電動ドリル、唐グワ等も使用している。3人の顧問が安全性に十分に配慮することで、道具を使いこなせる子供たちが育ちつつある。道具を遠ざけるのではなく、使いこなせるように技術を高め、安全性を確保することの重要性を改めて感じている。

子供たちは、鼻の頭に泥をつけた顔で手の平のママを自慢気に見せる。表情に輝きがあるのがうれしい。橋造りの作業でのことだ。子供たちの近くでポタッと音がした。1mを優に超えるアオダイショウが樹上から落ちてきたのだ。もう作業はいやだ、と逃げ出しはしないかと思いきや、「先生！へびが落ちてきたよ」と、事も無げに言い、その橋を「アオダイショウ橋」と名付けてしまった。昨年までザリガニを手で触れなかった女の子たちが、これほどたくましくなるとは。私たち顧問は苦笑いをするしかなかった。

3 ビオトープ10周年とCOP10の年を経て

昨年は、ビオトープが造成されて10年目の記念すべき年である。ビオトープ・フラワー委員会の企画で、作家の阿部夏丸氏の講演会を企画した。また、全校児童に「ビオトープ一行詩」を、3年生以上には「ビオトープフォトコンテスト」への参加を呼びかけて実施した。

10月21日、体育館の壁に全校児童673名の一行詩・俳句・短歌と中・高学年に加え、学区のみなさんも応募された写真249枚が掲示され、阿部夏丸氏の記念講演に花を添えた。子供たちは、「川が教えてくれたもの」という阿部さんの楽しいお話に大喜び。「寿恵野の森ビオトープ」で培った知識と体験を、大自然の中で思い切り発揮してほしいという阿部さんのメッセージを十二分に受け取った。

一方、ビオトープ部は、10月26日、COP10を応援する市民広場に参加した。会議場を正面に見る熱田公園に設置されたブースで、4月から行ってきたビオトープの再生活動を劇とプレゼンテーションによって発表した。

参加者には、ビオトープのもみじで手作りしたしおりをプレゼントし、交流することができた。中には、「寿恵野の森ビオトープを見学に行きたい」「ふるさとの森という地元樹種の森を創る活動がおもしろい」と言われる方もおられ、子供たちの自信を強める成果を上げることができた。何より、自分たちの活動が世界とつながっていると実感できたことが、一番の収穫であった。

このような多岐に渡る学習活動を通して、今後もビオトープが大好きな「寿恵野っ子」たちを、いのちのつながりとその尊厳を体得できる子供たちにすべく、努力していきたいと考えている。



「小川にワンドを造ろう」ビオトープ部員